

# カトリック 仙台教区報

2005年3月6日 No.162  
発行  
カトリック 仙台司教区  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

## 「仙台教区集会祭儀式次第」完成

### 仙台教区顧問団

溝部司教の時代から仙台教区司祭評議会を取り上げられ「集会祭儀式次第」の作成に取りかかっていたことの一つに、司祭が不在のため小教区で主日にミサが行われない場合にはどうしたらよいか、という問題がありました。その理由は、集会祭儀についての理解やその必要性なども、司祭により、また地域によってまちまちだったからです。こうして司祭評議会でも議論を重ね、その結論として2004年3月に溝部司教が「司祭不在の時の主日の集会祭儀を行うに際して」と題する司教書



集会祭儀司式者任命式(元寺小路教会)

宮崎正美氏(東仙台教会)、勝俣美代子氏(同)、橋本亮二氏(元寺小路教会)のチームに素案作りを依頼し、提出されてきた素案を司祭評議会でも検討する、という作業を勧める」という方針を表明し、計4回繰り返し、5回目に最

終版ができる、という過程を見ました。なお、この過程のさなかに、溝部司教の高松への転任ということが起こりましたが、教区顧問団の責任のもとに作成を継続することとなりました。

こうして「仙台教区 集会祭儀式次第」が完成し、2004年12月20日付で教区内のすべての小教区、修道院に配布することができました。各小教区ではこれを、そこで必要とするだけコピーして使っていただくことになりました。

ただ、使用に当たっては、「まえがき」および「集会祭儀を行うにあたっての留意点」にもありますが、各共同体は司祭と共によく準備することから始めてください。その良い準備になるものとして、「仙台教区活性化のための研修会」がこの「式次第」を材料として用いられて開催されることになっています。岩手県では既に2月6日に行われましたが、他の3県では3月以降の開催が計画されています(2頁参照)。それには希望者は信徒・修道者・司祭の誰でも参加できることになっていますので、ふるって参加なさるようにお勧めいたします。

## 塩と光

復活徹夜祭の初めに言う「光の祭儀」で、復活のろくに灯されている「キリストの光」を、わたしたち一人ひとりが自分のろくに灯します。キ

リスト者が、自分で努力して、自力で光を輝かすのではなく、「まことの光であり、世に来てすべての人を照らす」(ヨハネ1・9)キリストから、光をいただくのです。光源はあくまで、キリストご自身でありますが、この光であられるキリストに照らされるからこそ、わたしたちも及ばずながら「世の光」になったのです(マタイ5・14参照)。エマオへ向かって旅をしていたクレオパともう一人の弟子は、そのときは、みことばの光に照らされていなかったため、一緒に歩いてくださった復活のイエスに、全く気づきませんでした。そこで、イエスは、聖書全体にわたってご自分について書かれていることを、すべて説き明かされました。ですから、さえぎられていたこれらの信仰の目が、みことばの光によって開かれ、イエスだと気づくことができました。勿論、食卓を共にするという体験も必要でした。キリストのおことは、光なので。 博

# 『教区活性化のための研修会』開催要項固まる

## 「仙台教区宣教司牧を考える会」代議員代表者会

「教区活性化のための研修会」は、今年で3回目となるが、2004年12月18日に開催された「宣教司牧を考える会」代議員代表者会 教区本部司祭2名・司祭代表1名・信徒代表4名・修道者代表1名 において開催要項が検討された。

前回までは、仙台教区長であった瀧部脩司教が各県を回って講師を務めてくださったことで、教区全体で同一の内容で研修会を行うことが出来た。今年の研修会開催を考える上で、講師をどうするかということが大きな課題となった。

開催案内は、後日各県ごとに作成して配布されるが、各県共通の開催要項は次の通りである。

- 1 主題 ミサへの生き生きとした参加 司祭不在の時の主日の「集会祭儀」
- 2 趣旨 「主の日」を祝う典礼が信仰生活の活力の源となっているかどうかの振り返りを行うと同時に、今回は 司祭不在の時の主日の「集会祭儀」について

学び、参加者が今まで小教区共同体の中で共同体のために果たしてきた役割を振り返りながら、更にこれからどういつ働きをするに「復活の八日間」と「聖霊降臨の主日」には、ミサの最後の派遣の言葉に「アレルヤ」を付けます。この「復活節」は、すでに二世紀半ばから祝われていました。復活の主の顕現と聖霊の降臨は未来の完全な救いの保証と考え、復活後50日目、その期間の終わりとしたのは、三世紀になってからであります。世紀になつてからであります。ちなみに、ヨハネ福音書では、主の復活後すぐに弟子たちは聖霊を、受けました(ヨハネ20・22 参照)。



教区活性化研修会のひとこま 2003年宮城県

- 8 申し込み期限 研修会開催日の1週間前まで
- 9 主催 カトリック仙台教区宣教司牧を考える会

### 【司祭異動】05年4月1日付

- 青森県  
フォーレ・エノ 黒石、五所川原  
デューベ・シル 弘前主任(ケベック会)  
渡辺 昭一 引退  
岩手県  
木村 国基 盛岡地区担当  
ララ・ティブルシオ 東京教区へ転出  
宮城県  
氏家 和仁 仙台中央地区担当  
川崎 忠紀 仙台中央地区担当  
尹 汝沃(ユン ヨオク) 気仙沼主任  
キエザ・カルロ イタリアへ帰国  
笹氣 直哉 横浜教区へ移籍  
福島県  
マルチネス・ホアン 会津地区担当  
(グアダルベ会)  
プランカス ガビノ 東京・グアダルベ会本部へ転出

## 典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木博

### 典礼暦年のクライマックスである「過越の三日間」

「主の受難」(聖金曜日)から始まり、「復活徹夜祭」と「復活の主日」までを、典礼暦では伝統的に「過越の三日間」といいます。この三日間こそ、全典礼暦年の頂点として輝いているのであります。なぜなら、イエス・キリストの救いのみ業のクライマックスを祝うからであります。ですから、パウロは、この三日間の救いの出来事が、福音の核心であることを、次のよ

うに強調しております。「最も大切なこととしてわたしがあなたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いておられるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと」です(1コリント15・3・4)。

ところで、「復活節」を、「復活の主日」から「聖霊降臨の主日」に至るまでの五十日間にわたって、ただ一つの「主の日」として、歡喜に満ちて祝つてあります。ですから、「この間」アレルヤ」を盛大に歌います。特

に「復活の八日間」と「聖霊降臨の主日」には、ミサの最後の派遣の言葉に「アレルヤ」を付けます。この「復活節」は、すでに二世紀半ばから祝われていました。復活の主の顕現と聖霊の降臨は未来の完全な救いの保証と考え、復活後50日目、その期間の終わりとしたのは、三世紀になってからであります。ちなみに、ヨハネ福音書では、主の復活後すぐに弟子たちは聖霊を、受けました(ヨハネ20・22 参照)。

- 3 日時・場所 各県ごとに決定しだい各県の代議員から送付される。
  - 4 プログラム オリエンテーション・講話・質疑応答
  - 5 講師 各県の司祭団から選出された司祭
  - 6 参加対象者 希望する全ての信徒・修道者・司祭
  - 7 参加申込宛先(各県代議員代表者宛、小教区ごとにまとめて)
- 青森県 八戸塩町教会気付 里村 智彦  
岩手県 四ツ家教会気付 伊藤 宏子  
宮城県 元寺小路教会気付 伊藤 雄基  
福島県 松木町教会気付 菅野 明



イグナシオ・マルティネス神父  
(グアダルベ宣教会)  
日本管区長を退任、メキシコへ帰国(メキシコ・シティーにある総本部事務局へ)  
後任の日本管区長はホセ・モンロイ神父

# 多様性の一致を求めて 各地で一致祈禱会

1月18日から25日まで、キリスト教一致祈禱週間となっている。これを受けて、仙台キリスト教連合(代表三浦謙牧師・日本福音ルーテル鶴ヶ谷教会)主催の新年合同礼拝(1月1日)と新年合同祈禱会(1月16日・1月23日)が行われた。【写真左】

1月23日の合同祈禱会は、仙台市青葉区の日本聖公会仙台基督教会で行われた。教区管理者の平賀徹夫師が説教をするということもあって、74名の参加者中、カトリック教会からは、30人ほどが参加した。

平賀師は、「福音を告げ知らせる」と題しての説教で、「私たち



がキリスト者になったのは、キリストを告げ知らせるためである。そのために呼ばれた。神のひとり子がこの世にいられてから2000年たったが、それに値する社会になつていいるだろうか。私たちキリスト者は、一つの教会になるために呼ばれている。実際できることから、一緒にやってみよう。キリストのいのちを尊ぶ者として、手を携えて一致のために働こう」と、教皇様の『新千年期の初めに』を紹介しながら話された。祈禱会では、平和の祈り、主の祈り、自由祈禱などが行われ、平賀師の祝福・祝福で閉会した。

のキリストのもとに、多様性の一致をもとめていくことがたいせつである」と話されたことが、強く印象に残った。

また、青森市では、ACC(青森キリスト教協議会)主催のもと、1月23日(日)市内の7つの教会が青森市戸山にあるプロテスタントの教会(当番教会「戸山教会」)に集い、キリスト教一致祈禱会が行われた。参加者は78名。祈禱会の後懇親会に入り、当番教会手づくりのケーキを賞味しながら、お互いの教会を紹介しあつた。盛岡市では、1月25日カトリック上堂教会で、2月1日、日本キリスト教団下ノ橋教会でキリスト教一致祈禱会行われた。

## 国際交流のつどい 西仙台教会

私たちの教会は、青葉区三条町の国際交流会館や大学が近いため、細々ながら外国の方々の援助を続けて来ました。組織的な活動として、毎週日曜日に、家電品、日用品、寝具などを提供するようになったのは、15年くらい前からです。せっかくなので、いろいろな国の方々が来ているのに、品物提供の一方通行だけでなく、心の交流も、5、6年前から始まったのが

「国際交流のつどい」です。今年のは、1月16日大雪の中で行われました。ミサの中で、コートジボアールのギイさんに母国語で聖書朗読をしていただきました。ミサ後、新年会、成人の祝い、つどいを兼ねたパーティを開きました。あつあつの豚汁、テーブルいっぱい、の婦人部持ちの料理、信徒会長の乾杯につづいて料理に舌鼓、余興は婦人部の歌、尹神父様の話と韓国留学生のデュエット、フィリピンの人生の歌、ギイさんのマリア様の歌、フランスの鬼ごっこ、この歌、天使園生の歌、ドミニコ会シスターズの歌と盛りだくさん。とても楽しいひとときを共有しました。



この日いらつしゃつた方々は、韓国・コートジボアール・フィリピン・ペルトリコ・フランス・日本です。外に出ると、雪はまだ降り続いていました。

教会ではこれからも、毎日曜日に物品提供を続けていきたいと思つていきます。ちょっと教会を訪ねてみてください。(豊原幸恵)

## 一致して教区の力に！ 仙台カトリック壮年の会 新年会開催

仙台圏に住むカトリック壮年達で作る「仙台カトリック壮年の会」の新年会が2月6日(日)昼、カトリック北仙台教会信徒館ホールにて34名の参加を得て開催された。ゲストとして出席された仙台中央地区のエメ神父からは、当日の福音にある「地の塩」になるようにとの壮年に期待する旨の話があつた。その後各教会から現況報告があつたが、教会で行つた葬儀についての対応など各教会に共通する課題が数多く話題に上り、今後小教区の枠を越えて互いに協力する必要性が話題となった。また、仙台教区の司教様になかなか決まらないことにも話題が及び、教区にとって善き牧者である司教様を渴望する思いを共感し、司教座空位の仙台教区を支えるためにも頑張ろうとの思いで一致した。

(世話人代表 岡田謙一)

# カナダ留学を終えて

教区司祭 氏家 和仁



「・・・海

外で勉強して  
みないか・・・  
若いうちに

様々な体験をしておくことは、  
今後あなたの司祭生活に必ず  
役に立つと思うよ。」

前教区長溝部司教様から声  
をかけられ、悩みながらも留学  
の意向を受け03年5月にカナ  
ダ・オタワ市に向かいました。  
約2年間語学研修と、ほんの  
少しの司牧神学にチャレンジ  
しました。

語学がそこそこ出来て、神学  
にも長けているならば、何の問  
題もなく留学の成果を極める  
ことはさほど困難ではないの  
でしょうが、語学の勉強から数  
十年離れていた状態で、英文法  
も英会話もろくすっぽ準備し  
て行かなかった自分としては、  
現地に行つて赤っ恥をかく毎  
日でした。

「・・・何いつてんの?」「・・・わ  
かったかい」「・・・そこに行つて  
聞きなさい」「・・・あきれたな」  
「・・・さっぱりわからないよ、君  
の言つてゐることは」「このよつな  
言葉に毎日毎日追いつめられ、  
劣等感を感じ、人と話すことが

溝部司教様は第一回の会議  
において、「この委員会は具  
体的な活動団体ではなく、人  
権に関する問題に関して、教  
区としての基本的な見方を提  
示するものであり、問題がど  
こにあるかを理解した上で専  
門家や実際に活動している団  
体の助けを借りながら、教区  
に答申を提出し、教区の意識  
変革に寄与することがその任  
務です。」と述べられました。

**教区人権を考える委員会**  
委員長 園部英俊  
(元寺小路教会)  
04年5月、溝部司教様の強  
いご意向により、仙台司教区  
に「人権を考える委員会」が  
発足しました。委員は、土井  
勝吾師、Sr.長谷川昌子(聖パ  
ウロ女子修道会)、猪俣暁子  
(西仙台)、園部英俊(元寺)  
の4名。教区事務局から梅津  
明生師、平賀徹夫師が参加し  
ております。

人権に関わる問題は実に多

怖くて怖くてたまらなかつた  
約半年間を忘れることは出来  
ません。

授業中、必死になつてジェス  
チャー英語を使いながらも、今  
まで自分の体験してきた教会  
での司牧生活のことを語つて  
いたとき、他の学生たちと少し  
ずつ少しずつ対話が成り立つ  
て来ました。私の心の中でわず



オタワ、ノートルダム大聖堂

かながら「通じている」と体感  
した喜びは、いつまでも心に残  
っています。

私は、間違つて捉えていたこ  
と、忘れていたことがたくさん  
あることに気付かされました。  
それは、「コミュニケーション」  
を対話(伝達)と訳すならば、  
言葉や文章、絵、等の手段があ  
ります。英会話や文法、英単語  
の知識が初めにあるのではな  
く、それらは単なる手段である  
ことを、必死になつて彼らと出  
会おうとしたときに、やっと感  
じ取ることが出来ました。

「コミュニケーション」を交  
わりと訳すならば、私は多くの  
人と交わり、対話することを通  
して味わえたと感じています。  
あるパストラルケアの先生  
から言われたことがあります。  
病床訪問の時に患者さんの視  
線に目の高さを合わせること  
で、相手の思い、相手の意志を  
受け取ることが出来ます。また  
それだけでなく、視線を合わせ  
る(見つめ合う)ことで霊的な  
祈りを受け取ることが出来、こ  
のかかわりが神秘的な交わり  
となります。このことが、司牧  
の実践の中で要求されている  
ことも学びました。相手(患者  
さん)の思いと一致したかかわ

りが実践できたなら・・・。  
カナダの地においてフラン  
ス系カナダ人、イギリス系カナ  
ダ人、そして様々な国から移住  
してきている多くの方々に出  
会うことによつて感じる文化、  
風土を言葉にすることは、あま  
りにも困難なことです。カトリ  
ック・キリスト教国として進化  
している教会の姿を一片だけ  
しか見ていない私にとつて、「こ  
れがカナダのカトリック」と断  
言することは出来ません。しか  
し、言えることは、「キリストの  
愛に生かされ、キリストの道を  
祈りと信仰によつて歩み育ん  
でいる姿がそこにある」という  
ことです。それは全世界共通で  
あるということを感じること  
が出来ました。

留学を終え、多くのことを学  
び、また、学んだと意識しな  
かつたことでも、身に付いてい  
る見えないものがあるとすれば、  
これからの司牧生活の中で現  
れてくることを私自身期待し  
ています。

「教区報」にスペースをいた  
だきましたので、委員会から  
の情報発信と信徒、修道者、  
司祭、のみなさまとの情報交  
換に努めてまいりますのでど  
うぞよろしくお願いいたしま  
す。

最後に、私の留学が教区の信  
徒の皆様、シスターの方々、神  
父様方、皆様に多くの祈りと援  
助によつて支えて頂いたこと  
を心から感謝申し上げます。

# 仙台中央地区

## 集会司式者 兼聖体奉仕者 任命式

1月23日(日)元寺小路教会 ミサの説教で、平賀神父は「聖体奉仕者は教会の中で仕える役割を持っています。信徒の皆さんもそれを受け止めることで互いに仕え合うことができます。」

この日は、元寺小路教会以外の中央地区各教会でのミサは行われず、中央地区教会の信徒で、聖堂は満員となった。

教区管理者の平賀徹夫神父の司式で、共同司教司牧司祭5人が加わりミサがささげられた。

『光』を伝えていくために互いに

に仕えあいながら生きる決心を固めましょう」と話された。つづいて、任命式が行われ、

集会司式者兼聖体奉仕者に任命される一人ひとりの名前が呼ばれ祭壇の前に並んだ。田中

丈夫神父が、会衆に向かって「この方々を聖体奉仕者として任命することに賛成しますか」と問いかけ、会衆は「はい、賛成いたします」と答えた。これを受けて、平賀神父が任命を

宣言した。

任期は2年で、主日のミサでの聖体奉仕と、「司祭不在の主

日の集会祭儀」の司式者を務めることになる。

なお、今回任命されたのは、

東仙台教会8名、一本杉教会6名、豊屋丁教会3名、八木山教会6名、西仙台教会6名、元寺小路教会21名、計50名となる。

任命を受けた感想を鈴木俊子さん(東仙台教会)は、「とても緊張しました。溝部司教様が『聖体奉仕者は儀式をするのでも、聖体を配るだけでもありません。祈りと、福音を深く読み取ることが大事です。』その上で聖体を授けてください」といわれたことを改めて思い起こしました。」と語った。



**<シリーズ>**  
**188名日本殉教者列福の推進**  
**雲仙の殉教者**  
**- パウロ内堀作右衛門**  
 溝部 脩 司教

内堀作右衛門は有馬家に仕えた武士。主君晴信が不祥事件を起こして切腹、嫡男直純は棄教、1613年以降有馬領では迫害がおこった。直純が日向領に国替えとなった時に、作右衛門が棄教した主君に随行することをおぼえず、武士を捨てて百姓となった。有馬領の本格的迫害は1623年よりであり、三代将軍家光就任とともに諸大名に迫害を迫った。1627年棄教を迫られた作右衛門は3人の息子と共に捕らえられ、同年2月21日三人の息子は他の12名と共に手の指を切断され、パウロの眼前で首に石をつけられて海中に投げ入れられた。その後作右衛門も両指を切られ、額に「切」「支」「丹」と焼印された。次いで作右衛門とその仲間15名は雲仙に送られ、湯壺のそばに立たされ、一人ずつ湯壺に投げ込まれて殉教した。1627年2月28日のことである。

### 貧しい人が叫ぶ 神が心える

#### 聖ウルスラ修道会

Sr. クレマンズ・シャボット

私が神の呼びかけを感じたのは14歳の時でした。母を亡くした私は、慰めを求めて毎日教会を訪れましたが、聖櫃の前にひざまずくと、イエスの魅力に惹かれて、だんだん教会に行く目的はイエスに出会うためになっていきまし

### 招きよこたえて



暗闇を照らしてくれました。そのとき、神様が私に触れたと実感しました。不思議な星が道をしめすように、捧げる生活が私の歩む道だと喜びのうちに確信しました。

勉強が進むにつれて教育に関する興味がわいてきましたので、教育学部に入学しました。それで3年間聖ウルスラ学院寮で生活しました。そこで私は、シスター方から大き

一句が稲妻のように私の心の



# 特別寄稿

## みちのくキリシタン殉教地を訪ねて

聖ドミニコ女子修道会 鈴木かな子

自然界は冬支度を始めているとはいえず、山々の紅葉がほんのりと残る12月初旬に、養成期のシスターたちと共に私たち7人は、みちのくキリシタン殉教地を訪ねました。

まずは当時の信仰の拠点とされた米川教会で、信徒の方々の温かいおもてなしを受け、教会に保存されている「苦行仏を模したキリストの木像」、観音様を思わせる「木像のマリア」＝写真＝等を見せて頂き、およそ400年前のキリシタンの強い信仰告白が私の胸に迫ってきました。



出し、キリシタン弾圧によっての迫害が始まり、平和であったこのキリシタン集落にもその波が押し寄せてきました。

そして、この米川・大籠の地にキリスト教を伝えたのが宣教師によるのではなく、東北製鉄の開祖とも言われる千葉土佐によって招聘された千松大八郎・小八郎兄弟であることは、私にとって特に印象深いことでした。

村人は、焔屋（製鉄所）で千松兄弟に製鉄の技術を習い、共

に働き、神の教えを聞き、生活も心も豊かにされました。そして、いつしかそこに集まる村人は増え、キリシタン集落が出来ていったのでしよう。素朴な村人にとって、神の教えは大きな生命との出会いであり、雄々しく生きる信仰となったのだと思います。しかし、1620年、伊達政宗はキリシタン禁令を出し、キリシタン弾圧によっての迫害が始まり、平和であったこのキリシタン集落にもその波が押し寄せてきました。

「三経塚」、「地藏辻」、「祭畑処刑場」、「上野処刑場」をひとつひとつ巡りながら、何とも言えないむごい処刑、封建社会の権力主義を貫こうとする幕府の政策に怒りを感じました。でもそれ以上に無言とはいえ、篤い信仰をもって殉教の道へと辿ったキリシタンの生きたあかしの出来事は、今なお、この静かな田園地帯に響きわたっているように思い、キリシタンによって祈り込められた大地から、私は沢山の力をいただくことが出来ました。

更に、私たちはキリシタンの思いを共有し、大柄沢のキリシタン洞窟へと向かいました。この洞窟は1621年から1639年までフランシスコ・バラヤス神父が弾圧を逃れ、隠れて信者のためにミサを捧げた所です。うっそうとした山の斜面にあるこの洞窟に、私たちは中腰になり懐中電灯とロウソクの明かりで、奥へ奥へと入っていききました。全くの静けさ、息をのんで一番奥を見ると祭壇があり、マリア像が置かれていました。

走りました。そして私たちはこの洞窟の中で、身をかがめて大きな声で「テゼ共同体の歌」を何度も歌いました。

「主こそまことの救い 永遠の喜び 我が力、我が歌、主のみを信じて決して恐れぬ。」

小さな洞窟に包み込まれた私たちは、この地に眠るキリシタンと共に、日常の中で、神様の生命に与り、神様の生命を伝える者となって生きていくことが出来るようにと、切に祈り、この地で得た恵みをしっかりと携えて帰路につきました。



場所 岩手県水沢市福原寿庵廟前  
カトリック水沢教会  
寿庵祭実行委員会

## 新米神父行状記

川崎 忠紀

まだまだ

昨年春、盛岡へ引っ越して来てお会いする信者さん方から、「ここは夏暑くて、冬は寒いよ」とのご挨拶をいただいた。暑いのも、寒いのも苦手な私。そんな私に夏が訪れる。本当に暑い。以前南の島に行っていたので、「多少の暑さなんて大丈夫」と思っていたのに、ダウンしてしまいました。情けない。

そんな夏も過ぎ、雪の降る季節がやって来た。夏がひどかったのかかなりびびって迎えた冬。今のところそれほど寒くもない。春の日差しを感じる日もあり、このまま少しずつ暖くなるのかなーとも思ってしまふ。地元の方は、今年は暖かい冬だという。内心運がいいと思って、「今年の冬は暖かくていいですね」と、お話しをしたら怪訝な顔をされてしまった。どうしたのですかと聞くと、こんな話をしてくださった。

その方の庭の梅の話である。ある年の12月、暖かい日が続く梅のつぼみがふくらみだしたという。年末になり例年通りの気温に下がり、つぼみはだめになってしまった。それから迎えた春、梅の花は咲かなかったという。

寒いときは寒くないといけませんねと言うことでこのお話は終わったが、これを聞きながら私は恥ずかしくなった。それは、この冬の自分を自分中心に考えていたからだ。この地域の人々にとっての暖かい冬は、大変な被害となる。そういうことも考えられない私。情けない。

まだまだペーパーである。

## 各地から

宮城 米川教会

小さな信者の誕生

今年のクリスマスは大変すばらしいことがありました。

数年前より教会に他町の信者さんがいらっしやるようになりまして。フィリピンからの花嫁さんです。ご主人と一緒に来て、神父さんや信者の方々とどちらもカタコトの英語と日本語のやりとりでした。このころは普通の日本語で通じるようになりまして。

いつしかこの方々の子どもさんも仲間になって本当に久しぶりにミサの最中に子どもがするようになりました。



すばらしいこととはこの子どもさんの洗礼式と初聖体があったことです。洗礼式は9歳の恵比寿厚志(えびすあつし)君、初聖体はちよつとお姉さんの恵比寿恵利沙(えりさ)ちゃんです。=写真=

米川の信者の皆さん、他町から駆けつけた多くの家族の皆さん、それにクリスマスだから特別に来たお兄さんたちに囲まれ、式は厳かに執り行われまして。信者の私たちも感動の時間でした。式終了後大きな声で聖歌を歌って祝いました。ミサの後、子どもたちを中心にささやかなお祝いをしました。他にも子どもたちはまだまだいます。この子どもたちが成人することを楽しみに教会とともに生きていきたいと皆さんも思っただけです。(佐藤憲一)

初聖体について

恵比寿恵利沙

12月24日クリスマスイブの日、教会で「初聖体」という儀式をします。いとこの厚志もこれと「洗礼式」をやりませう。

3週間くらい前から準備をしていました。私の方の準備は白いドレスとベールと花の輪

を準備します。ベールと花の輪は用意してくれて、白いドレスはお母さんが用意してくれました。厚志の方の準備はタキシードぐらいみたいです。私はザンゲ(ゆるしの秘跡)もしました。ザンゲというのは、ザンゲの部屋です。

イブの日がやってきました。予想より人数が多かったのでびっくりしました。教会は思っていたより寒かったです。厚志の洗礼式のあと私と厚志で初聖体をやったそのあと大人よりも早く神様の体(白いパンみたいなもの)を食べました。お母さんは「味はない」と言っていたけどアイスのコーンの味がしました。思っていたより美味しかったです。ここで一言思いました。(これで本当の大人になれるんだなあ)と思いました。

初聖体について

福島 二本松教会

二本松教会は駅より徒歩で7〜8分、二本松インターより車で3〜4分の位置にあり、教会・司祭館・幼稚園がマリア像・殉教碑を中心に額を合わせ

るように建ち並んでいます。門を入ると、保護聖人の無原罪の

マリア像が大きな鳥海石の上に立ち、慈愛に満ちたその表情は私たちはもとより市民全体を包み込むような空気が漂っています。その前で、園児が大きな声で挨拶している光景はほほえましいものです。

2003年には、溝部司教様のご尽力により殉教碑を建立したことは大きな喜びでした。1632年に14名が阿武隈川の供中(くちゅう)河原で処刑された人々の顕彰碑を建立することは、私たちの念願でした。第13回目の殉教祭に溝部司教様の司式で除幕式が行われましたが、現在高松へ転任されたことを考えると、天の配剤の不思議さに感謝せずにはおられません。碑の建立によって他県からの巡礼者の訪れや市の「歩こう会」の人々の立ち寄る場所ともなり、殉教者の信仰の証が静かに波紋のような広がりを見せています。

福島 二本松教会

昨年には神父様方とノートルダム修道会のご指導により一人の少年と、外国から嫁がれた方の二人のお子さんが洗礼を受け、5人の小学生が初聖体を受けました。=写真=この子達

は引き続き侍者の勉強中であり、私たちに希望の光をもたらしてくれませう。信者の大半は老境の域に達しておりますが、置かれた状況とタレントを生かしながら、月2回ミサのための準備、難民救済の物資収集、ミニバザーの展開など一致協力して教会活動にあたっております。



去る1月30日には、有志が白河教会の殉教祭に臨み、神父様や信者の方々と心温まる交流をすることが出来、小さな教会でありながら、他教会との交流はキリストの肢体として、大きな広がりになると確信した一日でもあり、主と共に歩んでくださることに感謝しました。

(渡邊久勝)

# 活動紹介

## 手作りサークル

（北仙台教会・信徒親睦部）  
前身はバザーの時期だけの集まりでしたが、4年前から信徒親睦部の「手作りサークル」（代表大野道子）として、親睦と奉仕を目的に年間を通して活動しています。

春は、あけの星会（仙塩地区連合婦人会）総会バザー、秋は教会のバザーで手作り品を販売し、収益金をあけの星会の活

## 私の気分転換

東仙台教会 伊藤雄基  
～ホットする～

私にこんな能力なんてあるのかな。いつもそんなことを思いながら、色々な仕事を引き受けて毎日過ごしています。

民生児童委員、町内会長、それに付随する団体との関与。そして教会の信徒会長として4年経過。一番心の負担となっているのが教会との関わりです。要領の悪い自分についていつも疑問を感じてしまうことがあります。

問題を抱えどうしたらよいかと重圧を感じてしまいます。思うように考えがまと

動や、教会の福祉活動に役立てていただいています。また、冬は「路上生活者支援活動」へ毛糸の手編み帽子を贈っています。3回目となった昨年は100人分を用意することができました。バザーで買ってくださる皆様や、作品を提供してくださる皆様のあたたかいご協力に心から感謝しております。

定期の例会は月に2回、中庭の聖母像をのぞむ信徒館で作業をしています。参加者は40代から80代の十数名で、ドミまらなしい時はつい、「ただ、ボー」としてしまいます。特に趣味を保持しない私なので、それによって気晴らしをすることが出来ませんが、どちらかというとじつとしていたことが嫌いなこともあり、1時間程祈りながら力を込めて歩くことで心のモヤモヤを発散させています。物事に立ち向かう気持ちを再燃させて行くことで、スッキリとして解決した時の気持ちに満足感を感じ「ホット」することがあります。

それは、動いている中にいつも神様の手助けとお恵みがあることと感謝している日々です。



ニコ会のシスター方もまじえ、世代や立場をこえたコミュニケーションの場になっています。

小さな事でも、お役に立てることは嬉しいものです。誰でも気軽に参加し、仲間と楽しく仕事をし、元気をもらって帰宅



できるような雰囲気作りを何よりも大切にしています。

最近、教会外からの参加者も増えました。編み棒や縫い針を運びながら、あちこちで楽しい会話に花が咲きます。

（遠藤雪子）

## 修道院紹介

聖ウルスラ修道会

田面木修道院

時として、キジの親子が、食堂に面した庭を優雅に散策す

る光景が見られるほどに、八戸市の田面木にある当修道院は自然に恵まれています。ここに現在13名の会員がおり、約半数が何らかの形で、直接に主たる使徒職である学校教育に携わり、他の者は教会での聖書研究・教理研究、フランス語の教授、アソシエ（本会の霊性によって信徒としての生活を深める人たち）の担当や院内の仕事を引き受けながら、文字通り毎日の祈りで、学校を支えています。

そのため、当修道院の特徴は何といっても、学校との関わりが緊密であることといえるでしょう。修道院の聖堂では、園児・児童の祈りの会、高校生の修養会や宗教の授業、教職員の始業ミサなどが行われる他に、大切な試合前の必勝祈願でしょう。運動部の生徒たちの祈る姿も見られます。また、フランス語を勉強したい生徒が始業前や放課後に修道院を訪れて来ます。このように、修道院に学校の姿が目に見える形で存在することも私共に使徒職への熱意を鼓舞してくれます。

なお、今年には本会創立470年、また、総会の年にも当たっておりますので、会員は会の力リスマを現代の教会と社会に



どのように生かして貢献できるかを真剣に探求したいと思っております。（Sr.大野俊子）

## 文芸

### 《短歌》

成毛一雄（一本杉教会）

かぎりなく青き空よりくだり来て祈りのなかを風花の舞うもるの手を合わせて祈るたなそここに「よなきい」のち包むがごとく  
梅のはな匂える園の碑の前にいのちの重み受けとめてたつ

### 《俳句》

佐々木由岐子（東仙台教会）

初空へ大十字架の吸われけり古里に来て母あらぬ夜寒かな寒椿咲き継ぐ日和続きけり

